

2007 年度 1 学期 多言語・多文化社会論 (社会・文化)

第 1 回 ガイダンス (講義のねらいと方法)

2007 年 4 月 13 日

塩原良和

(shiobarayoshikazu@hotmail.com)

0 . はじめに : 本講義を貫く 3 つのテーマ

多言語・多文化化する日本

マジョリティを相対化する

マイノリティの経験する「日本」

1 . 多言語・多文化化する日本

・ビデオ : 新宿区大久保の場合

・パワーポイント : 日本の外国人住民の動向

・本講義における問い : 多言語・多文化化は、なぜ起こっているのか。それはどのような社会構造の変化によってもたらされているのか?

2 . マジョリティを相対化する

・「マジョリティ (majority)」と「マイノリティ (minority)」

「マイノリティ」: ある社会において弱い立場にあり、不平等や差別を被る可能性が高い人々 : 相対的な概念

・日本にいる「外国人」は、「日本人」との対比において「マイノリティ」とみなされる

・「日本人」はいつでもマジョリティなのか?

「マイノリティ性」をもつ「日本人」

「日本人」と見なされがちな人々のなかのエスニック的差異

・日本社会における「マジョリティ」と「マイノリティ」の境界は、「マジョリティ」の側に身を置く人たちが考えているよりもずっとあいまいなのではないだろうか?

3 . マイノリティが経験する「日本」

・日本社会で有無を言わず「マイノリティ」というレッテルを貼られる人々 そのような人々にとって「マイノリティ」と「マジョリティ」の区別は明確で、暴力的に押し付けられるもの

・「マイノリティ」のレッテルを貼る意識や行為 : そのようなまなざしや行為にさらされた人は、どのように感じているのだろうか?

・そういったまなざしや行為に抵抗し、闘っているマイノリティの人々の抵抗のあり方は、どのようなものなのだろうか?

4 . 「多文化共生」の理念と政策

・「多文化共生」の強調 : 外国人に寛容な社会、外国人と対等な立場で付き合うことのできる社会というスローガン

- ・日本社会における外国人市民の直面する困難
- ・だが、「外国人を支援する」という発想の問題性：「マジョリティ＝日本人」と「マイノリティ＝外国人」という区別を強めることにつながらないだろうか？マイノリティはいつまでたってもマイノリティのまま？
- ・では、どうすればいいのだろうか？
- ・本講義における問い：多言語・多文化化している現在の日本社会のマジョリティとマイノリティの関係はどうなっているのか。そして、それはどうあるべきなのか？

## 5. 講義スケジュール

週	日付	題目	講師（予定）
1	4/13	ガイダンス（授業の狙いと方法）	塩原良和（東京外大）
2	4/20	多言語・多文化化する社会(1)外国人労働者と日本の労働市場 オーバースティの問題など具体的事例から、二重労働市場と外国人導入の「二極化」の傾向について論じる	鈴木江理子（立教大学兼任講師）
3	4/27	多言語・多文化化する社会(2)職場における外国人労働者 職場というミクロな場における人種間関係と、日本の雇用構造の変動との関係をフィールドワークの経験から問いかける	五十嵐泰正（筑波大学）
4	5/11	多言語・多文化化する社会(3)都市と多言語・多文化社会 都市と地域社会という視点から多言語・多文化化という社会変容を読み解く	渡戸一郎（明星大学 / APFS）
5	5/18	多言語・多文化化する社会(4)エスニック・ビジネス 在日コリアンの事例を中心に、エスニック起業家の台頭とその意味を論じる	橋本みゆき（立教大学兼任講師）
6	5/25	多言語・多文化化する社会(5)ジェンダーと多文化社会 「複合差別（女性差別×マイノリティ差別）」の視点から、多文化社会におけるマイノリティ性とジェンダーの関係性を問いかける	藤岡美恵子（IMADR / 法政大・非常勤）
7	6/1	中間まとめ（ワークショップ）	塩原良和（東京外大）
8	6/8	マジョリティを相対化する(1)日本社会の見えない「多文化」 ニューカマー外国人住民に比べてインビジブルなマイノリティ（被差別部落、先住民族、在日コリアンなど）の存在に焦点を当てる	倉石一郎（東京外大）
9	6/15	マジョリティを相対化する(2) 沖縄・小笠原諸島と日本 近代日本の「エスニック・マイノリティ」である沖縄諸島や小笠原諸島の人びとがたどってきた経験を、国家・帝国との関係から考える	石原 俊（千葉大学）
10	6/22	マジョリティを相対化する(3)多文化主義 マジョリティによる国民統合の言説としての「多文化主義」の効用と限界を探る	塩原良和（東京外大）
11	6/29	マイノリティの経験する「日本」(1)外国人住民	イスラム・ヒム（バングラ

		への偏見 アルカイダのメンバーと誤認されて逮捕された経験から、外国人への犯罪者視、反テロリズムが外国人市民の生活に与える影響を訴える	ディッシュ出身・会社経営)
12	7/6	マイノリティの経験する「日本」(2)在日コリアンにおける民族文化振興活動 「ふれあい館」と青丘社の歩みを中心に、今日の在日コリアンにとっての民族文化の持つ意味とそれを希求する活動を論じる	斐重度(川崎市ふれあい館館長)
13	7/13	講義のまとめ(ワークショップ)	塩原良和(東京外大)

7/20 予備日

## 6. 講義の方法

(予習) 事前にリーディングスの該当部分を読み、質問を用意する

(当日) 講師による講義

講師には、講義中になるべく学生に質問するように依頼

学生も、講義中に講師に質問をすることを勧める

塩原の介入：講義中の問いかけ、質問が少ないときには、塩原が介入

講義コメント記入： 事前に用意した質問はどのようなものか？

講義や討論をつうじて、どのような回答が得られたか？(残った疑問は何か？)

コメントは次週に履修者に返却する 評価対象

配布資料やスライドは可能な限りブログに掲載する予定

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer-education/>

## 7. 評価の方法

シラバスの記載内容を変更

出席(コメントノートの提出で出席を兼ねる): 30%

コメントノート記入(毎週): 70%

A 4版のコメントシートを講義回数分まとめた簡単なノートを配布する

毎回の講義のコメントを記入し、提出(毎週金曜の18時までに多文化コミュニティ教育支援室の事務の方まで提出): 翌週に返却

学生は期末に、コメントノート全体を読み返した自己批評を書き、講義最終日にコメントノートといっしょにホッチキス止めして提出する

## 8. リーディングス配布について

・来週、リーディングスを配布するので、履修する人はなるべく出席するように